

NEWS RELEASE

2024年2月8日
日本豆乳協会
SOY2312

日本豆乳協会

2023年（1-12月期）における豆乳類の生産量が398,485 kℓを達成

～ 無調整豆乳は、過去最高の生産量（128,330 kℓ）を記録、
豆乳類全体の生産量は、前年同期比95.7%とほぼ同量で推移 ～

日本豆乳協会（事務局：千代田区二番町 会長：山崎 孝一 キッコーマンソイフーズ株式会社 代表取締役社長、事務局長：杉谷 智博、以下豆乳協会）では、2023年1-12月期における豆乳市場の動向について検証したところ、豆乳類全体の生産量は398,485 kℓ（前年同期比：95.7%）となりました。

2023年（1年間）における豆乳生産量を豆乳類の分類ごとにみると、「豆乳（無調整）」の生産量は128,330 kℓ（101.6%）と引き続き、増加傾向にあり、過去最高を記録しています。「調製豆乳」は191,187 kℓ（93.6%）、「果汁入り豆乳飲料」は15,953 kℓ（100.6%）、コーヒーや紅茶などの「フレーバー系の豆乳飲料（その他）」は49,738 kℓ（89.1%）と「果汁入り豆乳飲料」を除き、いずれも前年をやや下回りました。主に業務用の豆乳である「その他」の категорияにおいては13,277 kℓ（94.3%）と、引き続き低迷している外食需要の減少による影響を受けています。なお、出荷量においては、生産量と同様の傾向を示しています。

一方で、第4四半期（2023年10月-12月期）の生産量においては、「豆乳（無調整）」の生産量は34,336 kℓ（107.4%）、「果汁入り豆乳飲料」は、3,839 kℓ（106.2%）と2つの категорияにおいて、前年を上回り回復傾向にあります。一方で、「調製豆乳」は、49,522 kℓ（94.4%）、コーヒーや紅茶などの「フレーバー系の豆乳飲料（その他）」は、12,131 kℓ（95.5%）となり、前年同期を下回る結果となりました。出荷量においても生産量と同様の傾向を示しています。なお、主に業務用を用途とする「その他」の categoriaにおいては3,246 kℓ（90.6%）と、第4四半期の推移はほぼ前年並みとなりました。

2023年の豆乳市場は、他の食品・飲料類同様に、外部環境の変化や価格改定の影響を受けた市場環境でしたが、ほぼ前年の数値を維持しています。加えて、豆乳愛飲者や料理需要の多い無調整豆乳や果汁入り豆乳飲料においては、大きな伸びを見せており、ヘビーユーザー層の増加、さらには、新規ユーザー層を取り込んでいると考えます。特に、無調整豆乳は、砂糖などの甘味料などは使用しておらず健康的であり、大豆たんぱくやイソフラボンを手軽に摂取することができるため、健康意識が強い消費者の需要が高まっていると考えられます。

豆乳協会では、引き続き、国民一人あたりの豆乳（類）年間飲用消費量を4ℓに増加させ（2022年3.4ℓ / 総人口12,500万人）、年間総生産量を50万kℓにすることを目標に、豆乳に対する人々の理解や関心を高めるため、年間を通じて様々な啓発・啓蒙活動を展開していきます。

（参考）

日本豆乳協会は、豆乳および豆乳製品の普及を第一の目的に様々な啓蒙活動を行っています。昭和54年（1979年）9月1日に設立して以来、豆乳メーカー各社が会員となり、メーカー同士の親睦や情報交換、さらには他の機関や団体との協調を図っています。豆乳類の製造、加工、品質、流通に関する研究はもちろん、業界の健全な育成、発展に寄与することをミッションに、日々、豆乳の普及や期待される効果・効能の啓蒙活動を展開しています。毎年10月12日を「豆乳の日」と制定し、業界全体が一丸となって豆乳の普及に向けて様々な活動を行っています。

～報道関係の方のお問い合わせ先～

日本豆乳協会 広報担当

（株）VA インターナショナル
田中/岩野

メール：vai@va-intl.co.jp
TEL:03-3499-0016 FAX:03-3499-0017